

ボランティア活動

清泉女学院右手大榎町復興支援プロジェクト報告

輝く笑顔を取り戻すために

ボランティア運営委員長 小林敏枝

平成24年8〜9月、学生45名、教職員8名の合計53名が岩手県大榎町でボランティア活動をしました。震災から1年半経過した現地のニーズや現状の視察から、今回のプロジェクトは「子どもの笑顔を支える活動」「環境を支える活動」「地域の絆を支える活動」の3つを柱としました。

■笑顔を支える活動

幼児教育科の学生が中心となり、大榎保育園で1週間の保育サポートを行いました。大榎保育園は現在仮設の園舎で保育をしており、未満児から年長まで限られたスペースで生活しています。学生は、園長先生はじめ保育士の方々の仕事を手伝いました。絵本の読み聞かせや事前に準備し



た遊びを通じて子どもと関わる中で、学生は多くのことを学びました。また、子どもの笑顔の奥にある震災体験について、園長先生から話を聞く機会があり、「また来てね」の子どもの言葉に胸が熱くなる思いでした。

■環境を支える活動

吉里吉里海岸は、大きな瓦礫は取り除かれています。海岸の砂の中には細かなガラスや金属の破片があります。「海水浴のできる海岸に！」のプロジェクトとして清掃活動を行いました。作業の後、大榎町が一望できる高台に移動し、大榎町ボランティアセンターの方の話を聞きました。震災の日のこと、それから今までの時間の流れなど、大変貴重な体験になりました。



■地域の絆を支える活動

大榎町最大の仮設住宅の方々と交流するイベントを開催しました。「和野つこハウス」を拠点に、おやきや五平餅、そば茶など信州の食材を提供したり、ふれあいコンサートを開催したり…。多くの方々にお願いしたとき、学生は地域の方々と話し、一緒にうたを歌うことを通じて様々なことを感じたことでしょう。

今回は、カリタスジャパン大榎ベースに宿泊しました。そこでの他大学の学生との交流は、学生にとって「自分自身をみつめ振り返る機会」として大変有意義でした。また今年度のプロジェクトは、現地での活動だけでなく、事前研修・事後報告の取り組みにも重点を置きました。

事前研修では、「3月11日を生きて」の上映会と青池監督とのトークセッションを開催し、活動後の報告会は、大榎町社会福祉協議会の方の講演と学生の活動報告・写真展を行いました。

「地域に貢献する人材育成」を目標として、すでに次年度の計画が開始しています。プロジェクト実施にあたりお世話になった方々に心より感謝申し上げます。

大榎町で学んだこと

幼児教育科2年 小林朱里

私は今年の震災ボランティアに、第2班の保育サポーターとして参加しました。8泊9日という長期ボランティアは初めてだったので不安もありましたが、去年に引き

続き2回目の参加でしたので、保育園の子どもたちとの1年ぶりの再会が楽しみでもありました。保育園には5日間通いました。私たちが元気いっぱい笑顔で迎えてくれた子どもたちは、絵本や紙芝居を読むと「楽しかった!」、私たちが作ったおもちゃを持っていくと、「もっとやりたい!」と言います。そんな子どもたちの言葉がとてもうれしかったです。

しかし日々感じたことは、狭い環境の中で生活をしているストレスからか、気持ちが高まり所々で奇声を発する子、落ち着きがなく先生の話を集中して聞くことができない子、といった姿が毎日のように見られたことです。また、避難訓練の際に震災時のことを思い出して泣き出してしまったり、「園舎が流されちゃうの、怖いな」と言う子、家族がいないこと、家がないことなどを話す子がいました。そのようなときにどう言葉をかけたらいいのか、何度も迷っては先生や友達に相談し、次の日に生かすようにしました。夜は保育サポーター全員が集まって分かち合いをしました。

ポランテアは、する側も分かち合うことが大切だと宿泊先の方から言われ、その時間を大切にしながら過ごしました。

4日目、園長先生の震災当時の体験談は涙なしでは聞けないものでした。子どもたちがこの震災を経験したと思うと胸が痛みます。現地にいる方から直接話を聞く機会が少ない私にとって貴重な時間となり、災害の恐ろしさを改めて感じました。

ボランティアに参加し、学内だけでなく一般の人々に向けても報告し、情報発信ができたことも復興支援の一つだと思います。自分でできることをし、これからも復興を支援していきたいです。



平成24年度に参加した主なボランティア活動

- 第14回長野オリンピック記念長野マラソン大会
- 第8回長野車いすマラソン大会
- 2012 長野オリンピック記念長野マラソン大会 (視覚障害の部)
- 長野パルセイロホームゲーム
- 長野市障害者スポーツ大会
- グランフォンド軽井沢2012
- 学習コンピューター
- 放課後子どもプラン
- 長野地区障がい者スポーツ大会
- 須坂市ニュースポーツフェスティバル
- 第33回全国障害者技能競技大会 (アビリンピック)
- 野尻湖トライアスロン
- 小布施見にマラソン
- 第12回長野県障害者スポーツ大会
- 長野びんする
- 東長野病院小児チャレンジ入院
- サマーキャンプ支援
- 臥竜山でウォークラリー
- グランセローズ託児ボランティア
- 長野養護学校バドミントン交流会
- 2012 外国人健診
- NAGANO ハロウィン2012
- ながの灯明まつり

平成24年度国際交流事業を振り返る

アジア・豪州で活発に交流

国際交流運営委員長 藪田 由子

今年度の国際交流運営委員会では、海外協定校からの受入事業を3つ、海外研修を6か国で行いました。

受入事業としては、2012年3月に学術協定を結んだ、台湾の高雄第一科技大学から10名の学生が7月に来日、2週間本学に滞在しました。交流言語は主に英語で、それぞれが母語ではない言葉で交流する難しさを感じながらも、英語が国際語として使われている現状を感じることができました。

また、韓国、台湾では学術提携校の学生との交流がプログラムに含まれており、交流活動が活発に行われました。モンゴルではチョイロブサンジャブ言語文明大学を訪問した後、草原に出かけ学生とモンゴルの遊びで大いに盛り上がりました。韓国ではホームステイやソウル市内観光で、ハニャン女子大学学生会のメンバーが心からもてな

してくださり、さらに韓国への興味を深めることができました。台湾研修は今年度から始まった新たな試みでしたが、高雄第一科技大学の協力のもと、成功裏に終えることができました。7月に本学を訪問した学生との再会や、新たなメンバーとの出会いが両校の絆を一層強いものにしてくれたことを感じられた研修でした。

春期休暇にはハワイ研修が行われ、15名が参加しました。英語の習得に加えて、ハワイの文化も学ぶ研修。ハワイ文化の講義やフラを通して「アロハスピリッツ」を感じてきました。

友情を育んだ台湾研修

国際COM科2年 三村 裕子

私は、オーストラリア留学で出会った台湾の友人の話を聞いて台湾に興味を持ち、海外で英語で交流する機会を求めてこの研修に参加した。

研修先の大学では、毎日英語で講義を受けた。講義内容は台湾の文化や伝統についてで、書道実技

平成24年度海外研修プログラム研修期間	参加人数
フィリピン H24 8/2 ~ 8/9	8
オーストラリア H24 8/18 ~ 9/1	9
韓国 H24 8/30 ~ 9/6	15
モンゴル H24 9/8 ~ 9/15	6
台湾 H24 9/16 ~ 9/24	16
ハワイ H25 2/2 ~ 2/17	15

や中国語の講座もあった。また、台湾の学生と一緒に1泊2日で高雄郊外のビーチに出かけたり夜市に行ったりもした。毎日学生との交流があり、とても充実した日々だった。

この研修で一番感じたのは、台湾の学生たちの親切さだ。いつでも私たちが気にかけてくれて、昼食や他の校舎に移動する時などは必ず同行してくれた。英語や中国語の授業中も手厚いサポートがあった。台湾の人は相手が楽しめるように心遣いを忘れない。日本人よりもおもてなしの心を持っていると思った。毎日朝から晩まで交流して、国が同じなのではと思うほど仲良くなれたと思う。研修後も交流を続けられる大切な友人も得られた。友人が言った「You are my first Japanese friend!」という言葉が忘れられない。これから異文化交流をする機会があれば、とにかく積極的に多くのことに挑戦してみたいと思った。



台湾にて

平成25年度

自分を磨く公開講座

学びたいという欲求は年齢とは関係ありません。本学では、公開講座を通して、地域の方々に生涯学習の機会を提供しています。申し込み方法や締め切り、スケジュール、受講料など詳細については地域連携センターにお問い合わせください。

平成25年度公開講座（春期）

場所	講座名
M101 (長野県庁チャペル)	「認知症予防脳トレ士」養成講座 (プレ初級5日 10回)
	「認知症予防脳トレ士」養成講座 (初級5日 10回)
	やさしい心理学 (5回)
	保育現場における「気になる」子どもの支援について
生涯学習センター (1000)	芭蕉・蕪村・一茶の世界
	医療・福祉職種のためのユーモアコミュニケーション
	クアクラウン養成講座 phase1 (10回)
	保育者のための遊び力アップ講座
	楽しいヴォイストレーニング
	金子みすゞの詩を歌う
	話す力を磨く
	故事成語
	大人のための絵本講座 (2回)
	メディアを読み解く (2回)
テストは必要か 楽しい文章講座	
O101 (長野県庁)	美術史入門～「美術検定」対策講座 (3回)
	アメリカン・フォークソングの世界
長野県庁	第15回映画を読む

生涯学習オフィス

地域映画上映会

『阿弥陀堂だより』

本学では、平成21年度より生涯学習事業の一環として、地域住民の方々を対象に郷土に根ざした人物、歴史について学ぶ機会として映画上映会を開催しています。これまで須坂市出身の坂田雅子監督による『花はどこへいった』や、中野市で生まれた作曲家中山晋平を題材にした『ララ、歌は流れる』中山晋平物語』を上映してきました。

准教授山崎先生の歌と、兼任講師である野村美知子先生によるピアノ伴奏で行われました。100人を超える参加者の方々は、山崎先生の素晴らしい歌声に聞き入り、最後にみんなで『ふるさと』を合唱しました。その後、『ふるさと』を合奏しました。その中で、美しい飯山の風景やそこに生きる人々が描かれている、心に残る映画を堪能していただきました。

今年度は、北信州の飯山を舞台とした『阿弥陀堂だより』を上映し、さらに「ふるさと」をテーマにしたミニコンサートを行いました。ミニコンサートは、幼児教育科

今回、映画上映会をとおして、あらためて信州という土地の素晴らしさを実感し、この自然や文化を大切にしたいと思った方も少なくないと思います。これから、市民の方々にも、喜ばれ、感動していただけたらと思います。上映会を企画していきたいと考えています。

